

シルバー北見 152号

2026.6

■令和8年6月25日発行 ■(公社)北見市シルバー人材センター広報委員会 〒090-0836 北見市東三輪5丁目1-16 ☎0157-23-6000



<会員登録数>

単位：人

	3 月			4 月			5 月		
	入 会	退 会	月末現在	入 会	退 会	月末現在	入 会	退 会	月末現在
男	0	0	449	22	62	409	3	0	412
女	0	0	185	10	38	157	4	0	161
計	0	0	634	32	100	566	7	0	573

働くよろこび、社会参加の輪を広げよう

令和8年度

シルバー定時総会

開催

幅広い就業開拓と会員確保

基本方針を軸に計画を邁進

去る5月28日(木)、午後1時からZing芸術文化ホールで、令和8年度の北見シルバー人材センター定時総会が開催されました。

最初に、昨年度亡くなられた物故者3名の方々に黙禱が捧げられ、総会が始まりました。

司会の南保課長から82名の出席と委任状443名合わせて総会員の過半数を超え、総会が成立したとの報告があり、続いて21名の永年継続表彰が行われ、3名の出席者がそれぞれ理事長より記念品を受け取りました。

ついで、大矢根理事の挨拶、そして来賓の市長、市議会副議長、公共職業安定所長から祝辞をい

ただき、祝電披露のあと、議長に藤野健一さんが選出され議事が進行しました。

議案に沿って今出常務理事、高橋総務課長から令和7年度の事業報告、収支決算報告、監事から監査報告があり、引き続き令和8年度の事業計画、収支予算の説明がありました。

審議の中では、3名の会員から質疑がありました。

○社会奉仕活動会員の現状と今後の活動の見通しについて
↓昨年度は、3回の奉仕活動を行った。今年度も活動内容を検討し、会員増とともに活発で魅力的な活動を推進していきたい。

○新入会員を増やすための、具体的な取り組みについて↓道内のシルバー人材センターと、情報を交換し、具体的な手立てを講じていきたい。

○40周年記念事業の内容について↓式典等は行わず、記念誌の発行と会員への記念品の配布を行う予定である。

役員改選がありました 新任7名選出される

最後に、定款の一部改正と任期満了に伴う役員改選が行われました。新任の理事に、太田功さん・青山広茂さん・木村秀樹さん・栗城憲康さん・深瀬憲永さんの5名、監事に三村和恵さん・鈴木雅貴さんの2名が選出され、他の役員は再任となり、約2時間半にわたる総会を終えました。

司会の南保課長と役員皆さん

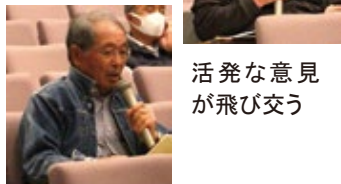


新体制の役員

監査報告



活発な意見が飛び交う



参加した会員の皆さん



議長の藤野さん



来賓の方々



理事長の挨拶



質疑応答の常務理事



大矢根理事長挨拶 仕事を通じて健康維持を そして社会的交流へ

会員の皆様には時節柄お忙しいところ、また、辻市長様はじめご来賓の皆様にも公務ご多忙のところ、定時総会にご出席いただき誠にありがとうございます。

日頃より当センターの事業運営にあたり、ご支援とご協力をいただき心よりお礼を申し上げます。

さて、ただ今、永年継続会員として表彰をされました21名の皆様、おめでとうございます。皆様は、10年間の長きにわたり、地域社会づくりに貢献され、当センターの発展に、大きくご尽力されました。心から、お祝いと感謝を申し上げます。今後とも健康には十分留意され、私も後輩にご指導をいただきます。



から、生涯現役を目指して仕事にも、日常生活においても活躍されることをご祈念申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、長く続いたコロナ禍も収まりつつあり、マスクを着用しないで外出する人が多くなりました。

高市総理の台湾発言の影響で中国から日本への渡航自粛が続く、最大で対前年60%減少する中、それに代わって近隣のアジア諸国や欧米からの旅行者が増加し、訪日外国人は過去最高を記録したとのことです。

また、アメリカのイラン侵攻に伴うホルムズ海峡の封鎖で石油製品の輸入が激減し、ガソリンや石油由来製品の値上げが続く、この影響で更なる日常生活用品の値上げも想定され、国民生活は非常に厳しい状況が続いております。

さて、当センターの昨年の事業実績につきましては、長期にわたる経済の低迷や、経済活動の先行き不透明感などから一般企業や公共事業の受注見直しや発注控えの影響で対前年比でシルバー発足以来例を見ない、3000万円超の減額となりました。また、会員数につきましては、一昨年新たに導入した社会

奉仕活動会員が39人入会しましたが、高齢や傷病による退職者数がこれを上回り、トータル54人の減少となりました。定年制の延長や就業確保措置の施行により、シルバーへの新規入会者は減少し、70歳を超えての入会が増加している状況が続いております。

さて全国シルバー人材センター事業協会が今年2月に公表した、センターで就業する人の介護予防効果を検証する調査の中で、シルバー会員は健康な状態と要介護状態の中間に位置する「フレイル」と言われる虚弱になるリスクが、地域高齢者を1とした場合、シルバー会員は0.66と34%軽減されていると結論付けました。

またその前に北海道シルバー人材センター連合会が実施した、「センター会員の医療費に関する調査」では、60歳から74歳までの会員の年間医療費額が未加入者の三分の一以下、75歳以上会員も半額以下との結果となりました。センター会員が、同じ年齢層の一般の高齢者より医療費が顕著に少額であることから、センターで働くことが健康面で役に立っていることや、仕事を通じて会員

や地域との社会的交流が広がり、心身に好影響を及ぼしているとの分析されています。

会員の皆様には、働く喜びと生きがい作り、併せて地域社会の担い手として、今後とも社会参加を続けていただきたいと思います。

結びにあたりまして、皆様のますますのご健康とシルバー人材センターの発展を祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。



祝電を披露する
袁島主任



漏れはないか・・・
入念なチェックをする

祝電

北見シルバー人材センターの令和8年度定時総会の開催にあたり心よりお祝い申し上げます
貴センターの益々のご発展とご参会の皆様の一層のご活躍ご健勝を心からご祈念申し上げます
公益社団法人 北海道シルバー人材センター
連合会会長 下村英敏 様
ほか、沢山の祝電をいただきました。

令和7年度 事業報告

物価・高騰・財政難による
受注の減少と会員の高齢化

令和7年度の当センターの事業実績は、経済活動の先行き不透明感から一般企業の受注契約の見直しや発注控え、公共事業では市の財政健全化計画による影響で大幅な受注減少となりました。年度当初から受注件数が伸び悩み、本年3月末で、請負と派遣事業を併せて3億7113万円となり、前年度対比で3037万円減という過去にない減額となりました。

会員数については、令和6年度に導入した新たな会員制度の、加齢などにより就業できなくなった会員が社会奉仕活動会員に移行するなど、3月末時点で39人となり退会抑制にもつながっておりますが、全国的な減少傾向が続く中、

3月年度末で634人と対前年比54人減と大幅な減少となりました。今後70歳までの就業確保措置の施行など、会員の確保は厳しい状況にあります。

当センターでは事業方針に基づき、会員確保と就業機会の拡大を重点事項として取り組んでまいりました。が会員の高齢化が進行する中、さらなる対応が必要と考えます。

例年実施の「奉仕清掃活動」「シルバーの日啓発活動」では会員の参加率も上がり、地域への社会貢献を果たすことができました。また就業に必要な各種講習会は、10回開催し178名の会員が参加しました。今後も会員の健康と安全を優先し、センター事業の運営に努めてまいります。



事業報告をする
今出常務理事



収支報告をする
高橋総務課長

北見シルバー人材センター令和6、7年度事業実績表（定時総会資料から）

		令和7年度	令和6年度	増 減
登録会員数	(人)	634	688	▲54
受注件数	(件)	5,364	5,668	▲304
就業延日人員数	(人日)	53,549	59,441	▲5,892
契 約 金 額	(円)	請負分 347,388,666	請負分 371,597,003	▲24,208,337
		派遣分 23,749,696	派遣分 29,912,926	▲6,163,230
		計 371,138,362	計 401,509,929	▲30,371,567
請 負 分 内 訳	配 分 金	296,897,851	320,076,834	▲23,178,983
	事 務 費	36,056,996	37,089,961	▲1,032,965
	原 材 料 費	14,433,819	14,430,208	3,611

令和8年度 事業計画

就業開拓と会員確保
多様な就業への対応

当センターの令和7年度の落ち込みの要因に市の財政計画や企業の発注控えなどがありますが、こうした状況を踏まえ幅広い就業開拓と会員確保を進めていかなければなりません。また就業ニーズが多様化する中、対応出来る派遣事業への取り組みも必要と考えます。

また、デジタル化の環境に合わせ、スマホやパソコンを活用した受発注管理、就業情報や会員管理などを積極的に進めています。が、会員向けネットワーク「スマイルtoスマイル」をさらに実用させ効率化や利便性を向上させます。

今年度は創立40周年の節目の年でもあります。高齢者の受け皿、快適な居場所として重要な役割を担いますが、基本理念に則り地域社会貢献に、目標達成に努めてまいります。

基本方針

- (1) 事業の普及啓発と就業機会の拡大
- (2) 会員拡大と知識・技術・技能の向上
- (3) 組織の運営強化と地区班活動の充実
- (4) 安全就業の徹底と事故防止
- (5) 長期長時間就業の是正と適正就業の遵守
- (6) 派遣事業の適正な実施と新規開拓
- (7) 中期5か年計画に基づいたセンター事業の推進
- (8) 独自事業(腐葉土製造販売)の継続
- (9) 事務局体制の充実強化と情報共有及びデジタル化に向けた事業促進
- (10) 中高年齢労働者福祉センター(指定管理者)の適正な運営管理
- (11) 各関係機関、団体との連携強化
- (12) 令和8年度事業目標の達成

令和8年度事業目標

- ① 会員数・・・670名
- ② 就業率・・・84・0%
- ③ 契約金額(請負)
370,000千円
- ④ 契約金額(派遣)
26,000千円



会員へ説明と案内をする



来年は多くの会員の参加を期待します

令和8年度 永年継続 会員の表彰行われる おめでとうございます

永年継続の皆さん

(敬称略)

伊東 邦裕	大石美智子	西森 弘	横田 恒子	藤井 律子	中 博美	今野 幸春	谷本 貞雄	松浦 勝司	岩崎 賢治	村山 時子
8地区2班	8地区2班	7地区3班	7地区2班	7地区2班	6地区2班	6地区2班	5地区3班	3地区3班	2地区3班	1地区2班
		小島 利頼	和崎 久夫	近藤 秀敏	近藤 廣子	神館 夏子	沼津 隆明	伊東 敏博	山崎 義美	熊野 信一
		12地区3班	12地区1班	12地区1班	12地区1班	11地区6班	11地区3班	9地区4班	8地区2班	8地区2班

令和8年度の永年継続会員表彰が定時総会の初めに行われました。今回は21名の皆さんが該当となり、出席された4名の方々は大矢根理事長から表彰状と記念品を受け取りました。

理事長からは、「皆さんは10年の長きにわたり卓越された技量と真摯な対応で地域社会づくりに尽力され、センター発展に貢献されてきました。これからも健康に留意され、後輩の手本となり、



表彰を受ける皆さん

生涯現役を目指しお過ごしください」と、挨拶がありました。



互助会総会を開く 組織強化と会員の親睦 センターの振興に協力

互助会の定期総会はセンターの定時総会終了後、4時過ぎから始まった。

総会の初めに、米寿会員7名の表彰があり、続いて新飯田会長の挨拶の後、議長に田中之也さんが選任され議事が進行された。

7年度 事業報告

5月に行われた定期総会、7月のパークゴルフ大会、10月の研修交流会、そして1月の新年研修交流会の4大行事と傷害保険の加入状況、また慶弔関係の事業報告が事務局よりあった。

続いて、収支決算報告のあと、幹事からの監査報告がなされ、審議では確認事項があったがすべて承認された。

8年度 事業計画

ついで事業計画では、定期総会をはじめ、昨年同様のパーク

ゴルフ大会、研修交流会、新年研修交流会の計画と、サークル活動の活性化の取り組みを発表。また、会員拡充や仕事の開拓などセンター事業の振興発展に努める内容と、これらの事業計画に伴う収支予算案についての説明があった。計画案もすべて承認され、次の議案へ移った。



新飯田会長の挨拶



栗田副会長の事業報告・収支報告及び事業計画の説明



宮本監事の収支計画発表



田中議長

任期満了の役員改選 新任5名の選出あり

改選では次の5名が新任で選出された。

副会長に宮本勇さん・事務局長に木村秀樹さん・常任幹事に猪狩隆澄さん・会計監事に堀籠守さん・佐々木岩男さん最後に規約の一部改正があり閉会となった。



司会の木村事務局長



役員の皆さん

米寿会員7名 表彰される

開会后、令和8年度の米寿会員の表彰が行われた。

井田正忠さん・佐藤忠子さん・長瀬吉夫さん・及川忠明さん・伊藤静子さん・仙北谷秀秋さん・五十嵐良三さんの7名で、この日は井田さん・長瀬さん及川さんの3名が出席され、新飯田会長からお祝いが送られた。

井田さんは、65歳で入会し主に森林公園の管理人を務め草刈りや除雪などにも従事しこの度の表彰に至った。お三方とも何事にも動じない達観した佇まいであった。

米寿会員の皆さん、これからも元気で過ごしてください。



シルバー会員

3月27日(金)

マツケンサンバ公演の 舞台設営とグッズ販売を担う

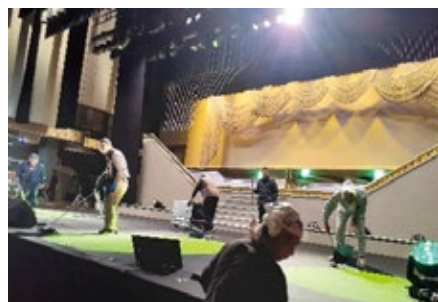


事務局から、マツケンサンバ手伝いの情報をもらい取材に行ってみた。晴れた暖かい日で、北ガスホール（市民会館）の駐車場には10時前には次々と車が入ってきた。

大ホールに行くと舞台設営を請け負っている業者に混じって、黒田さんはじめ5～6人の会員が働いていた。業者の人は黒いユニホームを着て20人近くもいた。

邪魔にならないよう写真を撮らせてもらい、少しの合間に話を聞く。

大きい舞台を先に造り上げ、その他を順番に組み立てて行くようだが、見ていて手際の良さがうかがえる。若い人達と働く姿はキビキビしていて同じシルバー会員として誇りを感じた。



スタッフは会員に、要点をゆっくり、はっきりとした口調で指示を出していた。それによって全員が動き作業が進んで行く。会員たちも余計な事はしない。熟練した光景を見た。余談だがそのスタッフは「泉谷しげる」にそっくりだった。

夜の公演が終わった8時から撤去作業をするとのこと。会員の皆さんは、普段それぞれ自らの仕事をしていて、こういう時に顔を合わすそうだ。

一方、12時半から小ホールで行われた屋のグッズ販売は、奥まで4列もの渋滞が出来ていて、開演間際まで続いた。

女性会員の三村さん五十嵐さんは商品の手渡し、中川さんは客の対応と終始忙しい様子だった。金銭のやり取りは業者の女性が一人で担当していた。

客足が途絶えた合間に、写真を撮らせてもらった。一段落し、ほっとした顔にやり遂げたあとの充実感がうかんでいた。



夜の部も混雑が予想されるそうだ。3人は普段、家事サービスなどの仕事をしているとのこと。働いているシルバーの会員は生き生きと見える。

これからも若々しく、健康に留意し仕事に励んでください。

春恒例：駐車場 ロープラインを引く 広報山口

今年もサンライフ北見駐車場のトラロープのライン引きが、4月16日(木)午後から行われた。

毎年、春先の地盤が固まったところを見計らい、休館日に受付担当4人で作業をする。ベテランの丹羽さんが用具一式を段どりし、3人に指示を出しながら進めていく。

まず、20台分の大枠をロープで囲む。1台は5m×2・5mなので70mになる。4人で持ち合って配置を決めていく。次に、枠の中に台数分のロープを測りながら置いていく。歪みなどを確かめたら、ロープ止めの鉤型の鉄杭をハンマーで打ち込んでいく。



鉄杭は太さ1cm、長さが20cmあり、これを1台の枠に10本打ち込む。数十本を木箱に入れ、一輪車に積んで移動する。ハンマーは数キロあって何回も振り落としていると腕も肩も疲れてくる。

この日は気温11度の晴れた日で日中は動いているだけで暑かった。休憩時のアイスや冷たい飲み物の差し入れが美味しかった。

乾いた日が続いたせいかわか地盤が固く、石に当たり鉄杭が曲がってしまうことがあった。少し斜めに入れると何とか入っていた。貼りが上がったロープの上に、石灰でラインを引いて完了する。

晩秋の撤去までロープがズレないようしつかり止めなければならず、もう一か所を始めるころには気温が大分下がってきた。

この日は二か所の作業で終了。後日もう二か所の作業を予定している。

初めて手伝いをしたロープライン引きだったが、きれいな仕上がりで満足した。

不用になった寝具(毛布・タオルケット タオルなど)ありませんか？

保護猫団体へ寄付します！
事務局・川原 望

保護猫団体は、殺処分を減らすために、野良猫や虐待から救出された猫を保護し、一時預かりや治療をして新しい飼い主を探す活動をしています。

北見には4団体あり、民間のボランティアで運営されていて、常に物資やボランティアの手を必要としています。

寄付されたタオルや毛布は、

- 寝床、保温：・・・ケージやキャリーバッグに敷いて暖を取る、体をくるむ。
- 掃除、衛生保持：・・・排泄物などの片付けケージ内の汚れ拭き
- 子猫、体調不良の猫のケア：・・・汚れたり濡れた体を拭く、ベッドに敷いて汚れたらすぐに交換する。
- ストレス軽減・・・毛布に包まることで猫が安心する。

として日常的に大量消費されています。

感染症予防のため使い捨てとして使うことも多く、非常に重宝されます。



私も猫が好きで、ボランティアに参加しています。
どうぞよろしくお願いします。

令和8年度 新入会員説明会開催

「あなたをみんなが待っている」
健康増進と生きがい充実のため

新年度に向けて、第一回目の「新入会員説明会」が去る3月5日（水）と6日（木）の両日ひらかれました。会場のサンライフ北見には、二日間で23名の市民が参加し、手続きを進めました。

会では、初めにシルバー事業の概略が収められた20分ほどの「ビデオテープ」が流されました。題は『60歳からの青春』主人公の「浦島太郎」が、シルバー人材センターを訪れて、その趣旨や事業内容について、知っていくなかみです。就業中の事故の保障や配分金の仕組み、7つの分野の仕事などわかりやすく編集されており、浦島さんとともに理解が進んでいきました。

続けて、「資料」をもとに今出事務局長から、詳細な説明が行われました。



- (1) 北見シルバー人材センターが「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づいて昭和62年に設立されたこと
- (2) その基本理念が『自主・自立』『共働・共助』の精神であること
- (3) 会員の責務は社会的なルールを守ることであり、会員には「一般会員」と「社会奉仕活動会員」の二つの区分があること

- (4) 《安全はすべてに優先する》を基本とし、健康管理と安全就業に努めること
- (5) 就業形態には、請負・委任・派遣の3つがあり、危険の恐れのある作業には就業させないこと

新規会員希望者には、事前に申し込みに訪れている人と当日直接来た人がいましたが、いずれも深く理解が進んだ様子で、質問は出されませんでした。参加者の一人、74歳の男性は、「今まで家にずっといましたが、伝書鳩で会員募集の記事を見て来ました。今日の説明を聞いて、自分にもまだ何かできそうな気がしています。」と話してくれました。

最後に、参加者が各々写真を撮って「入会手続き」を済ませ、帰途につきました。

今年3月19日（木）付けの北海道新聞「シニアLIFE」欄には、「シルバー人材センターの会員はフレイル（虚弱）になるリスクが低いとする調査結果

がまとまった。仕事を通じた地域での交流活動が、高齢者の心身に好影響を及ぼしている」との報告も掲載されています。

今後も、新規会員登録のための説明会は、毎月第2、第4木曜日午前、サンライフ北見を会場に開かれることになっています。知人友人に希望者がいれば、「あなたをみんなが待っていますよ」と、入会を勧めてみてはどうでしょうか。



令和8年

健康安全講習会開催

救急救命講習

胸骨圧迫を体験する！



春とは言え、まだ冷える3月12日（木）9時からサンライフ北見体育館で健康安全講習会があり、3年に一度の救急救命講習が昼近くまで行われた。

学校プール従事者や関係する会員、事務局職員の40名ほどが参加し、今出事務局長の挨拶で始まった。



講師に北見消防署西出張所の本田氏を迎え、119番の現状などから話があった。救急車の出動回数は数年前から変わりなく、1年間で7000件、その中でも心肺停止が200件近くあるという。

心肺蘇生法も近年、内容が変わってきて胸骨圧迫（心臓マッサージ）の重要性が強調され人工呼吸ができない場合、胸骨圧迫だけで良いという認識が広まっている。

では、胸骨圧迫はどの程度の強さ速さで行うのか・・・胸に見立てた模型で実施する。胸の中央の固い骨があるところを、約5cm（乾電池1本）沈む強さで、1分間に110回前後のペースで絶え間なく押し続ける。AEDが届いたらセットで行う。救急車が着くまで。



次に、3人一組で人形を使い、現場を想定した実習を行った。

- ①周囲の安全を確認し、肩を叩き大声で呼びかけ反応をみる
- ②反応がなければ周りに助けを求め、119番通報とAEDの持参をたのむ
誰もいなければ自分で119番して指示をうける
- ③胸や腹部の動きを見て普段通りの呼吸があるか判断する
- ④呼吸がない、分からない場合は胸骨圧迫を開始する
- ⑤AEDが届きカバーを開けると、自動電源ONとボタンを押すタイプがある
その後のパッドの貼り方など、すべて手順の案内が流れる

※救急車は約8分で到着する



広げた手にもう1本の腕を添えてと・・・5cm沈むと音が出るんだが・・・もっと体重乗せると～出た！いやあ、もうダメだわ交代！



AEDの電氣流が流れるから離れて！まだ胸骨圧迫が必要です ピーポーが聞こえます頑張ってください！



講習を終えて・・・以前の講習会がおぼろげな記憶だったので復習出来て良かったと同時に、現場に同じ知識を持ってる人が居合わせたら心強いなと感じた。自分は体力がないので指示役だなと思いながら、最後に修了証を頂き救命時の決意を新たにした。

会員のひろば

嘘のような

本当の話 3

進 敬 (2地区3班)

魚釣りの巻

緑が目につく初夏、川東のパークゴルフ場に通う回数が多くなり大橋を渡るが、川面で釣りをしてている人はほとんど見当たらない。小学生の頃は、この季節になると堰堤から橋まで釣り人でいっぱいだったような気がする。堰堤や橋も記憶では3回以上造り替えられ自然さが失われ人工化されているのが残念だ。

小学1年生の時、中学生の兄と近所の友達たちと大橋を渡って向こう岸の堰堤の水が流れる河原に釣りに連れて行ってもらった。これが人生最初の釣りであった。とにかく餌をつけてもらって、一本竿を水面に垂らしたが、竿が重くて持続的

に持てなかったし、水面の糸を上げ下げするだけでは何もつれなかった。ついには飽きてしまつて、置き竿して川原で砂遊びに興じていた。突然「引いているぞ」と兄の声がした。慌てて竿をしゃくり上げた。人生初めての釣りの獲物だった。なんと、カジカ（どんこ）だった。最初の一匹のしっぽに、少し大きい奴が食らいつき二匹いつぺんに釣れたのだった。今でも「漫画のような嘘のようなことがなぜ起こったのか」と思っている。河原の上ではねるカジカを手でつかむとヌメリがあり、すべすべしていて持ちにくかった。これが魚釣りを夢中にさせる第一歩だった。



小学4年生の頃、親に隠れて大川（常呂川）や中の島公園（無か川と常呂川の合流地点）、小町川へ釣りに行つた。竿は一本竿で短いものだったし、ハリスや鉛の付け方も十分でなかったし、川の中に入つて釣れる場所へ行けなかったので大物は釣れなかった。ドジョウ、カジカ、小さなエゾウグイ、ヤチウグイ、トゲウオと小物ばかりだった。ある日、大人の真似をして堰堤の水のしたたり落ちるよどみにミミズをつけた釣り針を投げ入れた。ぐいと手ごたえがあり、手元に引き上げると、10センチくらいのフナが釣れたのだった。初めて希望の魚が釣れて有頂天になった。

早く持ち帰って家の水槽に入れたと思った。魚を入れるブリキのバケツに水をくむとき、あわてて流してしまった。一瞬失敗したと思つたが後の祭りだった。

何としても初めての貴重なフナを生かして家へ持ち帰りたい一心でその時思いついた

のが靴の中に水を入れてそこに魚を入れて運ぶのだった。当時は今のようなズツクの短靴はなくなっていたのはゴムのみでできた短靴が当たり前だった。ゴム製なので水もれもなく魚一匹を十分に生かせる水が入った。

肩に一本竿、右手にゴム靴に入れた魚を持ち水をこぼさぬように注意し、右足裸足で、川から約3キロ離れた家までそろりそろりと1時間以上かけて帰るのが大変だった。特に裸足の右足裏は痛くて家に着いた時は傷だらけだった。

苦労して持ち帰ったフナを水槽に放した時はほっとした。



ほのぼのゆなちゃん 花をさぐる 山賀 茂 19



二人にちは

シルバー事務局です



現在は、総務課の経理を担当していますが、事務作業も新しい制度が入ってきたりと、なかなか頭の切り替えが追いつかずいます。

会員の皆様には、日頃より大変お世話になっております。私がシルバー人材センターに入社してから、早いもので10年が過ぎました。最初の3年は業務課でしたが、シルバーのお仕事の内容も何も分からず、会員の皆様にはご迷惑をお掛けしたり、色々と教えていただいたりと、目まぐるしい日々が昨日の事のように思い出されます。

色々なことが変化していく中で、入社した時は会員数も800人を超えていましたが年々減少し、今年度は570人のスタートとなりました。10年前に比べると寂しい限りですが、会員の皆様と未永く、ご一緒にシルバーを盛り立てていただければと思います。これから暑い季節となりますが、くれぐれもお体にご留意の上、お過ごしください。

北見市シルバー人材センター
総務課主任 養嶋久美子

編集後記

取材で十年ぶりに「新入会員説明会」に参加した。会の中身も様変わりし、DVDを使った紹介も行われていた。

説明会を終えて、写真を撮り、入会手続きを進めていく。中には、フアイティングポーズで撮影に臨む新会員もいて、仕事に向かう『やる気』が伝わってくる。

この一年、病気や高齢を理由に、退会者もあった。先日は、サンライフの建物に深々と一礼して、会を去っていった会員を見かけた。

先のDVDの終末では、主人公の浦島太郎が亀から「竜宮城にまいるましよう!」と誘われる。しかし、太郎は、「私は、シルバー人材センターに入会することにします。」ときっぱりと断り、『生きがい』の道を選択する。

新会員を迎え、さらに素晴らしい組織に発展させていくよう力を合わせていかねばならないと改めて思った。

(田中)